

共通教育

「学生による授業評価」ならびに
「教員のFD活動レポート」

報告書

平成16年度(前学期)



平成17年3月

共通教育「学生による授業評価」ならびに 「教員のFD活動レポート」報告書の作成にあたって

平成15年10月に旧宮崎大学と旧宮崎医科大学は統合して宮崎大学となり、さらに、平成16年4月には国立大学法人宮崎大学となった。このような国立大学の統合・法人化の全国的な流れの中で、宮崎大学の理念を教育面からどのように具現化するかが問われる事態となっている。本学においては、木花キャンパスにあった教養教育体制を改組し、清武キャンパスでの教養教育体制を加味した形で、教養教育に対して責任を果たす新たな体制として共通教育部を立ち上げた。

また、大学の法人化に伴い、大学・各学部・各学科・各課程における自己点検・評価の実施およびその結果に基づく改善案の作成が半ば義務化されている。教育の主たる任務が学生に対して教養と専門知識を身に付けさせることにあるとすると、教育の主体は学生にあり、それゆえ学生が満足できる授業を提供することが教員の努力目標となる。

そこで、共通教育部では、統合・法人化後の実質的初年度である平成16年度において前・後学期に開講されたすべての科目に対して「学生による授業評価」を実施した。「学生による授業評価」は共通教育を充実するための貴重な資料であるから、全教員がその評価結果の内容を把握できるように「学生による授業評価」報告書を作成することとした。この報告書が今後の授業の改善へとつながり、学生にとって魅力ある共通教育が実現するための一助となるものと信じている。

今年度は「学生による授業評価」と同時に「教員のFD活動レポート」を実施した。本学では初めての試みである。このレポートは授業担当教員が自分の担当科目を評価するものであり、これによって、学生と教員による授業評価の間の相関を見ることができる。また、このレポートの自由記述欄には、授業での具体的な取り組みや担当教員の率直な考え方が記載されている。

この報告書の内容に目を通して頂き、学生の評価を真摯に受け止めることが教員のFD活動につながるものになると確信している。

平成17年3月

宮崎大学共通教育部自己点検・評価委員会委員長

西森 利數

目次

第1章 実施の記録・調査票・結果報告書	1
第2章 評価結果の分析	4
【1】全科目の平均について	4
【2】科目群ごとの分析	6
【2-1】大学教育基礎科目について	7
【2-2】主題教養科目について	8
【2-3】選択教養科目について	9
【2-4】語学系の科目について	10
【2-5】科目群の間の評価の高低について	11
第3章 教員のFD活動レポート	12
【1】授業方法や授業内容について	14
【2-1】FD活動プラン：授業方法の改善について	17
【2-2】FD活動プラン：授業内容の充実・強化について	18
【2-3】FD活動に対する助成について	19
【3】自分の授業の評価点・反省点	20
【4】学生による授業評価およびFD活動レポートについて	28
第4章 各科目ごとのデータ一覧	29
「共通教育部自己点検・評価委員会」委員名簿	39

第1章 実施の記録・調査票・結果報告書

平成16年度前学期の共通教育科目についての「学生による授業評価」は次のように実施された。

実施時期：平成16年（2004年）7月上旬～中旬の授業期間中。

対象科目：すべての共通教育科目（268科目）。

実施方法：実務は学生部学生課と大学教育研究企画センターが担当し、各科目の登録学生数に応じた枚数の調査票をあらかじめ用意し各教員に配布した。各教員は授業時間内に学生に調査票を配布して調査を実施し、ただちに回収した。その後、大学教育研究企画センターが集計作業を行った。

回収率：87%（268科目中、234科目を回収した。）

返却：各教員へは調査票の現物とともに「結果報告書」が返却された。

報告：すべての科目の集計結果が共通教育部自己点検・評価委員会に報告された。本報告書は当該報告に基づき同委員会が作成した。

今回の特徴：初めて担当教員に「FD活動レポート」の提出を求めた。FD活動レポートは、所定の用紙を各教員に配布し、記入の後、学生用調査票とともに提出してもらった。

※調査票と結果報告書の現物を以下に掲載した。なお、実際には、「科目コード」「授業科目」「担当教員」の〇〇の部分にデータがあらかじめ記入されている。

※平成16年度後学期の授業評価は平成17年1月下旬から2月上旬にかけて実施され、207科目中166科目を回収した。（回収率80%）。現在、データを集計・入力中であり、近日中に報告書としてまとめられる予定である。

「学生による授業評価」調査票（共通教育）

記入にあたっては、真剣に、かつ、率直な評価をしてください。この調査を教員の授業改善につなげ、共通教育の充実を図ります。なお、この調査とあなたの成績とは一切関係ありません。

科目コード：○ ○ ○ 授業科目：○ ○ ○ 担当教員：○ ○ ○

I. 質問項目

A：受講・勉学態度等に関して

- 1 私（回答者自身）は75%以上授業に出席した。
- 2 私（回答者自身）は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。
予習や復習／重要事項の書き留め／課題の提出／授業内・外での教師への質問（オフィスアワーの活用），など

B：担当教員の教授技法や授業内容等に関して

- 3 授業はシラバスに沿って行われた。
- 4 授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。
- 5 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
- 6 重要ポイントが明示的で、説明も分かり易かった。
- 7 学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。
- 8 授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。

C：その他

- 9 学習環境は適切だった。
受講生数／教室の照明／空調／机・椅子などの備品の状態，等

D：総合的な授業評価

- 10 満足できる授業だった。

II 回答欄：

所属等： 学籍番号のはじめの4ケタを記入してください。

次の4段階評価に従って、最も適切な数字（④～①）を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

④：あてはまる ③：ややあてはまる ②：あまりあてはまらない ①：あてはまらない

		マーク欄				自由記述欄（左の項目に関連した意見や感想）
A	1	④	③	②	①	
	2	④	③	②	①	
B	3	④	③	②	①	
	4	④	③	②	①	
	5	④	③	②	①	
	6	④	③	②	①	
	7	④	③	②	①	
	8	④	③	②	①	
C	9	④	③	②	①	
D	10	④	③	②	①	

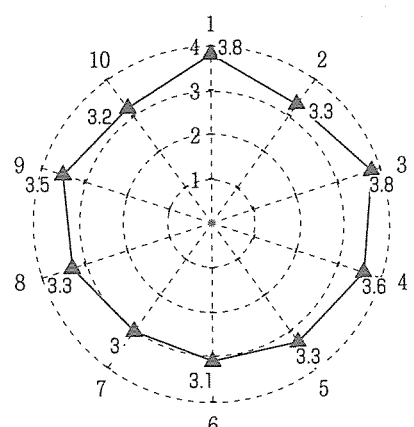
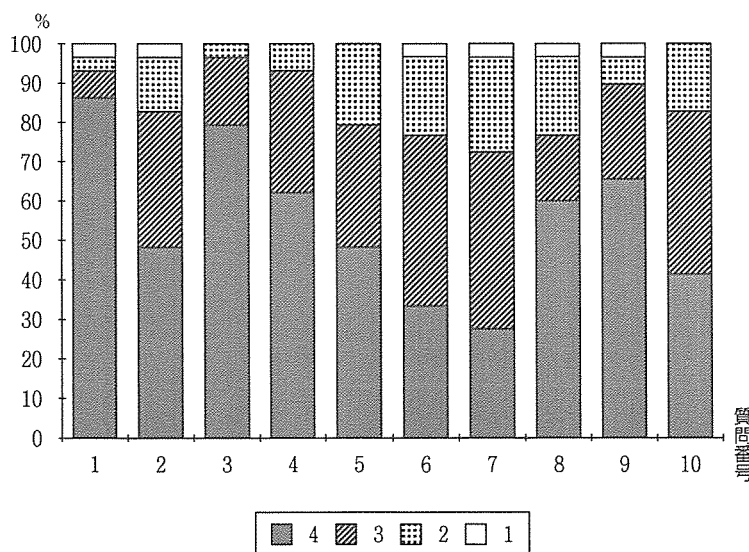
III. その他、この授業についてよかったこと、改善を求めたいこと、等の意見や感想を自由に述べてください。

「学生による授業評価」の結果報告書

科目コード	○ ○ ○	科目区分	共通教育		
授業科目	○ ○ ○				
担当教官	○ ○ ○ ○	実施時期	平成16年度 前学期	回答者数	29

I. 授業結果

No.	質問項目	4	3	2	1	合計
1	私（回答者自身）は75%以上授業に出席した。	25	2	1	1	29
2	私（回答者自身）は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。	14	10	4	1	29
3	授業はシラバスに沿って行われた。	23	5	1		29
4	授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。	18	9	2		29
5	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。	14	9	6		29
6	重要ポイントが明示的で、説明も分かり易かった。	10	13	6	1	30
7	学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。	8	13	7	1	29
8	授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。	18	5	6	1	30
9	学習環境は適切だった。	19	7	2	1	29
10	満足できる授業だった。	12	12	5		29
		161	85	40	6	292



II. 受講生の授業評価を受けて分かったこと、感想、改善すべきことなど回答用紙で確認ください。

第2章 評価結果の分析

【1】 全科目の平均について

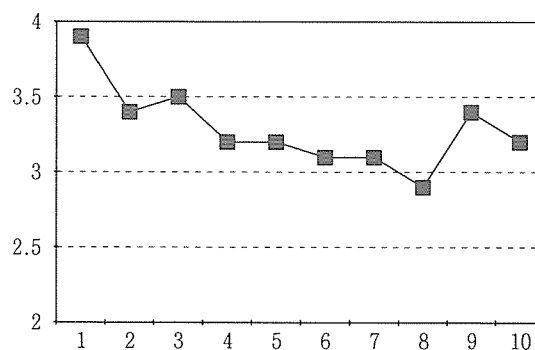
各質問項目ごとにすべての共通教育科目（全268科目のうち回収された234科目）の評価の平均を計算すると次の表のようになった。

質問項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
全科目の平均	3.9	3.4	3.5	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9	3.4	3.2

評価は「4：あてはまる。3：ややあてはまる。2：あまりあてはまらない。1：あてはまらない。」の4段階評価で行われている。

上の表をグラフにすると右のグラフ1のようになる。横軸は質問項目を、縦軸は評価を表している。

（グラフの評価2未満の部分は省略した。）



グラフ1 質問項目ごとの全科目の平均

また、質問項目は以下の10項目である。

A：回答者（学生）自身について

- 1 私は75%以上授業に出席した。
- 2 私は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。

B：教員の教え方について

- 3 授業はシラバスに沿って行われた。
- 4 授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。
- 5 担当教員の話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
- 6 重要なポイントが明示的で、説明も分かり易かった。
- 7 学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。
- 8 担当教員は授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。

C：学習環境について

- 9 学習環境は適切だった。

D：総合的な授業評価

- 10 満足できる授業だった。

上の表やグラフを見ると、質問1「私は75%以上授業に出席した」への評価の平均が「3.9」と最も高い。

このように、授業評価アンケートに回答した学生の出席率は高い。このことは、学生たちがほぼ毎回の授業に出席した上で授業評価アンケートに回答しているということの意味する。これは授業評価アンケートの信頼性を高める要素であろう。

授業評価アンケートに答えている学生たちの出席率はよい。

他方、質問8「担当教員は授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した」への評価の平均が「2.9」と最も低い。

自学自習の促進への評価が最も低い。

また、質問6「重要なポイントが明示的で、説明も分かり易かった」、質問7「学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった」への評価も「3.1」とあまり高くない。

教員の教え方への評価は総じてあまり高くない。

質問10「満足できる授業だった」への評価の平均は「3.2」である。4が「あてはまる」、3が「ややあてはまる」であるから、共通教育科目全体への学生の満足度は「満足できる」までは行かないが、「ほぼ満足できる」あるいは「満足できないわけではない」という水準である。

「満足できる授業だった」については「ややあてはまる」

【2】 科目群ごとの分析

共通教育科目を16の科目群に分類した場合の評価の平均は次の通りである。

質問項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
全科目平均		3.9	3.4	3.5	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9	3.4	3.2
大学教育基礎科目	(1) 日本語コミュニケーション (26科目)	3.9	3.6	3.4	3.3	3.3	3.2	3.1	3.0	3.4	3.2
	(2) 情報処理入門 (24科目)	4	3.6	3.5	3.1	3.2	3.0	3.1	2.9	3.6	3.3
	(3) 英語 (25科目)	3.9	3.3	3.5	3.2	3.2	3.0	3.0	3.1	3.6	3.2
	(4) コミュニケーション英語 (28科目)	3.9	3.2	3.5	3.3	3.4	3.1	3.2	3.3	3.7	3.4
	(5) 初修外国語 (41科目)	3.9	3.4	3.4	3.2	3.1	3.1	2.9	3.2	3.6	3.2
	(6) 保健体育科目 (25科目)	4	3.9	3.7	3.7	3.7	3.6	3.7	3.0	3.3	3.7
主題教養科目	(7) 現代の社会と倫理 (4科目)	4	3.3	3.5	3.1	3.1	2.9	2.9	2.3	3.1	3.0
	(8) 人間と文化 (10科目)	3.9	3.1	3.2	2.8	2.8	2.7	2.7	2.4	3.2	2.8
	(9) 現代社会の課題 (10科目)	3.8	3.1	3.4	3.2	3.1	3.1	2.9	2.4	3.1	3.1
	(10) 自然と生命 (22科目)	3.9	3.2	3.5	3.0	3.1	2.9	2.7	2.7	3.1	2.9
選択教養科目	(11) 文化・社会系 (16科目)	3.8	3.3	3.4	3.1	3.1	3.0	3.0	2.5	3.4	3.2
	(12) 科学・技術系 (12科目)	3.9	3.2	3.3	2.9	3.0	2.9	2.8	2.5	3.0	3.0
	(13) 生命科学系 (5科目)	4	3.3	3.4	2.8	2.9	2.8	2.8	2.3	3.5	3.0
	(14) 複合・学際系 (3科目)	4	3.4	3.7	3.5	3.6	3.4	3.3	2.4	3.5	3.5
	(15) 生涯学習系 (2科目)	3.9	3.9	3.9	3.9	3.6	3.5	3.8	3.0	3.4	3.7
	(16) 外国語系 (7科目)	3.9	3.4	3.7	3.4	3.5	3.4	3.3	3.1	3.7	3.4

以下、この表にもとづいて評価結果を分析していこう。

その際、全科目平均との差に注目し、全科目平均よりも値が低い欄には網掛けをして一目で分かるようにする。

以下のページの表で網かけは全科目平均よりも低いことを表す。

【2-1】 大学教育基礎科目について

まず、上の表から大学教育基礎科目の部分だけを取り出す。さらに、全科目平均との差を表に書き加える。差がマイナスになっている欄は全科目平均より値が低いことを表す。さらに、差がマイナスになっている欄には網をかける。次のようになった。

質問項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
全科目平均		3.9	3.4	3.5	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9	3.4	3.2
大学 教育 基礎 科目	(1) 日本語コミュニケーション (26科目)	3.9	3.6	3.4	3.3	3.3	3.2	3.1	3.0	3.4	3.2
	全科目平均との差	0	0.2	-0.1	0.1	0.1	0.1	0	0.1	0	0
	(2) 情報処理入門 (24科目)	4	3.6	3.5	3.1	3.2	3.0	3.1	2.9	3.6	3.3
	全科目平均との差	0.1	0.2	0	-0.1	0	-0.1	0	0	0.2	0.1
	(3) 英語 (25科目)	3.9	3.3	3.5	3.2	3.2	3.0	3.0	3.1	3.6	3.2
	全科目平均との差	0	-0.1	0	0	0	-0.1	-0.1	0.2	0.2	0
	(4) コミュニケーション英語 (28科目)	3.9	3.2	3.5	3.3	3.4	3.1	3.2	3.3	3.7	3.4
	全科目平均との差	0	-0.2	0	0.1	0.2	0	0.1	0.4	0.3	0.2
	(5) 初修外国語 (41科目)	3.9	3.4	3.4	3.2	3.1	3.1	2.9	3.2	3.6	3.2
	全科目平均との差	0	0	-0.1	0	-0.1	0	-0.2	0.3	0.2	0
	(6) 保健体育科目 (25科目)	4	3.9	3.7	3.7	3.7	3.6	3.7	3.0	3.3	3.7
	全科目平均との差	0.1	0.5	0.2	0.5	0.5	0.5	0.6	0.1	-0.1	0.5

この表から明らかのように、大学教育基礎科目の場合、全科目平均を下回る質問項目が少ない。各科目群ごとに見ると次のとおりである。

- (1) 「日本語コミュニケーション」は質問3以外はすべて平均以上である。
- (2) 「情報処理入門」は質問4と6以外はすべて平均以上である。
- (3) 「英語」は質問2と6と7以外はすべて平均以上である。
- (4) 「コミュニケーション英語」は質問2以外はすべて平均以上である。
- (5) 「初修外国語」(ドイツ語, フランス語, 中国語)は質問3と5と7以外はすべて平均以上である。
- (6) 「保健体育科目」は質問9以外はすべて平均以上である。

また、質問10の「満足できる授業だった」に関して、(6)「保健体育科目」の「3.7」と(4)「コミュニケーション英語」の「3.4」が抜きん出て高い。

大学教育基礎科目への学生の評価は高い。
特に「保健体育科目」「コミュニケーション英語」の満足度が高い。

【2-2】 主題教養科目について

次に、主題教養科目について同様に全科目平均との比較を行なう。

質問項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
全科目平均		3.9	3.4	3.5	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9	3.4	3.2
主題 教 養 科 目	(7) 現代の社会と倫理（4科目）	4	3.3	3.5	3.1	3.1	2.9	2.9	2.3	3.1	3.0
	全科目平均との差	0.1	-0.1	0	-0.1	-0.1	-0.2	-0.2	-0.6	-0.3	-0.2
	(8) 人間と文化（10科目）	3.9	3.1	3.2	2.8	2.8	2.7	2.7	2.4	3.2	2.8
	全科目平均との差	0	-0.3	-0.3	-0.4	-0.4	-0.4	-0.4	-0.5	-0.2	-0.4
	(9) 現代社会の課題（10科目）	3.8	3.1	3.4	3.2	3.1	3.1	2.9	2.4	3.1	3.1
	全科目平均との差	-0.1	-0.3	-0.1	0	-0.1	0	-0.2	-0.5	-0.3	-0.1
	(10) 自然と生命（22科目）	3.9	3.2	3.5	3.0	3.1	2.9	2.7	2.7	3.1	2.9
	全科目平均との差	0	-0.2	0	-0.2	-0.1	-0.2	-0.4	-0.2	-0.3	-0.3

一見して明らかなように、ほとんどの質問項目で全科目平均を下回っている。特に「人間と文化」は多くの質問項目が平均を0.4以上下回り、その評価の低さが目立つ。

ここで、特に質問10の「満足できる授業だった」に関して、個々の科目別のデータを見てみよう。質問10の全科目平均が「3.2」であるのに対し各科目の評価はどのくらいなのか。

（なお、科目別のデータは第4章に掲載してある。）

- (7) 「現代の社会と倫理」の4科目の質問10への評価は、高い順に「3.3」「3.1」「2.6」「未提出」である。
- (8) 「人間と文化」の10科目の場合は、高い順に「3.5」「3.3」「3.3」「3.2」「3」「2.5」「2.4」「2.2」「1.9」「未提出」である。これら10科目のうち4科目の評価が3未満であり、全科目平均をかなり下回っていることが目を引く。
- (9) 「現代社会の課題」の10科目の場合は、高い順に「3.4」「3.3」「3.3」「3.2」「3.2」「2.9」「2.9」「2.8」「2.7」「未提出」である。10科目のうち4科目の評価が3未満であるが、「人間と文化」ほど平均を下回ってはいない。
- (10) 「自然と生命」の22科目の場合は、高い順に「3.4」「3.4」「3.3」「3.3」「3.3」「3.2」「3.2」「3.0」「3.0」「2.9」「2.9」「2.8」「2.8」「2.8」「2.7」「2.7」「2.7」「2.7」「2.5」「2.0」「未提出」「未提出」である。22科目のうち11科目の評価が3未満である。

主題教養科目への学生の評価は低い。
特に「人間と文化」「自然と生命」への評価が低い。

【2-3】 選択教養科目について

次に、選択教養科目について同様に全科目平均との比較を行なう。

質問項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
全科目平均		3.9	3.4	3.5	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9	3.4	3.2
選択 教養 科目	(11) 文化・社会系（16科目）	3.8	3.3	3.4	3.1	3.1	3.0	3.0	2.5	3.4	3.2
	全科目平均との差	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.4	0	0
	(12) 科学・技術系（12科目）	3.9	3.2	3.3	2.9	3.0	2.9	2.8	2.5	3.0	3.0
	全科目平均との差	0	-0.2	-0.2	-0.3	-0.2	-0.2	-0.3	-0.4	-0.4	-0.2
	(13) 生命科学系（5科目）	4	3.3	3.4	2.8	2.9	2.8	2.8	2.3	3.5	3.0
	全科目平均との差	0.1	-0.1	-0.1	-0.4	-0.3	-0.3	-0.3	-0.6	0.1	-0.2
	(14) 複合・学際系（3科目）	4	3.4	3.7	3.5	3.6	3.4	3.3	2.4	3.5	3.5
	全科目平均との差	0.1	0	0.2	0.3	0.4	0.3	0.2	-0.5	0.1	0.3
	(15) 生涯学習系（2科目）	3.9	3.9	3.9	3.9	3.6	3.5	3.8	3.0	3.4	3.7
	全科目平均との差	0	0.5	0.4	0.7	0.4	0.4	0.7	0.1	0	0.5
	(16) 外国語系（7科目）	3.9	3.4	3.7	3.4	3.5	3.4	3.3	3.1	3.7	3.4
	全科目平均との差	0	0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2

「複合学際系」「生涯学習系」「外国語系」の評価の高さと、「文化社会系」「科学技術系」「生命科学系」の評価の低さとが、対照的な結果になった。

科目別のデータを見ると、「複合学際系」科目の一つである「フィールド体験講座」の質問10「満足できる授業だった」への評価が「4」と満点であった。この科目はフィールドセンターの森林、田畑、草地などを活用した科目である。野外での学習や活動体験が学生に歓迎されていることがうかがえる。

他方、「科学技術系」と「生命科学系」の場合、質問4～8の教員の教え方に関して全科目平均との開きがかなり大きい。

複合学際系、生涯学習系、外国語系の選択科目への評価は高い。

他方、科学技術系、生命科学系への評価は高くない。

【2-4】 語学系の科目について

ここで、共通教育科目のうちから、「英語（25科目）」「コミュニケーション英語（28科目）」「初修外国語（41科目）」「外国語系選択教養科目（7科目）」という語学系の科目を取り出して分析してみよう。語学系の科目は（前学期の）すべての共通教育科目268科目のうち101科目（38%）を占め、共通教育の大きな部分を構成しているからである。

質問3～8の項目（主に教授技法や授業内容等に関する質問）についての平均値・最低値・最高値は次のとおりである。

質問3～8	平均	最低	最高
英語（25科目）	3.1	2.5	3.7
コミュニケーション英語（28科目）	3.3	2.5	3.6
初修外国語（41科目）	3.1	2.6	3.6
外国語系選択科目（7科目）	3.3	2.9	3.6

これを見ると4段階評価においては特段の問題点があるとは思えない。全体的にはまずまずの評価ではないか。

次に質問10の「満足できる授業だった」に関して同様の表を示す。

質問10	平均	最低	最高
英語（25科目）	3.2	2.6	3.9
コミュニケーション英語（28科目）	3.4	2.6	3.8
初修外国語（41科目）	3.2	2.6	3.7
外国語系選択科目（7科目）	3.4	3.2	3.6

これも4段階評価においては特段の問題点があるとは思えない。全体的には健闘しているのではないか。コミュニケーション英語がやや高めなのは外国人非常勤教員のクラスが多いので、母国語話者から習っているという要素（雰囲気的なものである可能性は高い）が満足度評価に大きく関わっているものと考えられる。選択科目に関しては、パソコンを用いたCALL（Computer-Assisted Language Learning）的な科目が多いことで学生の満足度が高い（一方的な多人数の座学よりは自分で能動的に関わっているという意識が持ちやすい）のではないかと想像される。

語学系の科目への学生の評価はまずまずである。

【2-5】 科目群の間の評価の高低について

以上見てきたように、科目群の間で評価の高低差がある。このことに関して共通教育部自己点検評価委員会で検討した。その際、以下のような意見が出された。確たる結論は出ていない。今後の課題である。

学生の満足度について

- 満足度については、講義形式科目に比べ体験的や視聴覚関連科目が高くなる傾向にある。
- フィールド体験科目は、満足度の高さが目立っている。
- 現在の学生は座学に慣れておらず、授業形式にも変化のあるおもしろさを求める傾向がみられる。
- 理系に比べ人文系科目の満足度が低くなる傾向にあるが、高校における授業形態に影響があるのではないか？
- 保健体育科目については、座学科目と単純には比較が難しいのではないか？

今後の対策について

- これは宮崎大学の理系中心の学部構成の影響も考えられるが、大多数の学生にとって専門基礎とはならず純粋な教養である人文系科目については一般に関心が低い。特にヨーロッパ系の文化に関わる座学にその傾向が顕著である。理系の学生の場合、高校において歴史等の科目を履修していない場合が多いこともその一因であろう。学生の関心や高校時の学習内容を把握するとともに、人文学の基礎の重要性に関わる何らかの啓蒙的な働きかけが必要な時期に来ているのかもしれない。
- 共通教育における共通の評価基準の設定や評価項目の整理が必要ではないか？

科目群の評価の高低差をどう受け止めるかは今後の課題である。

第3章 教員のFD活動レポート

初めての試みとして今年度は各科目の担当教員に自分の授業を振り返るための「FD活動レポート」を提出してもらった。(FD活動レポートの用紙は次ページに掲載した。)

FD活動レポートは2つの部分からなる。即ち、A1からA8の「授業方法・内容に関する質問」(「学生による授業評価」の質問項目3～10に相当する)とBの「今後のFD活動プラン」の2つの部分である。さらに、BはB9「授業方法の改善に関するプラン」B10「授業内容の充実強化に関するプラン」B11「FD活動への助成に関する意見」の3つの質問からなる。

Aの「授業方法・内容に関する質問」に関する教員の回答と学生の回答とを突き合わせてみたが、両者はほぼ対応していることが判明した。つまり、学生の評価の高い項目については担当教員も高い評価をしており、逆に学生の評価の低い項目については教員も低い評価をしているという傾向がある。学生による授業評価がこれまで数年にわたって実施されて来ており、教員自身が自分に対する学生の評価を知っているということがその原因であると思われる。また、学生による授業評価の用紙を担当教員自身が回収しているので学生がどのような評価をしたかFD活動レポート作成前におおよそ知りうるという点も影響しているかもしれない。

学生による評価と教員による自己評価とは大体対応している。

ただし、FD活動レポートはABどちらにも自由記述欄がある。そこに記入された意見を以下に紹介しよう。(ただし、具体的な科目名が分からないように多少書き換えてある。)多くの教員がさまざまな指摘をしており、今後の授業改善のために大いに参考になると思われる。

FD活動レポートの自由記述欄は授業改善に有効と思われる。

※次ページに「FD活動レポート」の現物を掲載した。なお、実際には、「科目コード」「授業科目」「担当教員」の〇〇の部分にあらかじめデータが記入済みの用紙が配布された。

「共通教育担当教員FD活動レポート」

この調査は教員の授業改善につなげ、共通教育の充実を図ることを目的としています。記入にあたっては、各授業科目毎に率直に自分の授業を点検してください。

科目コード：○ ○ ○

授業科目：○ ○ ○

担当教員：○ ○ ○

I. 質問項目

A：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、自分の活動を自己点検してください。

- 1 シラバスに沿って授業を行えた。
- 2 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。
- 3 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。
- 4 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。
- 5 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。
- 6 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。
- 7 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。
- 8 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

B：当該授業科目を次回実施する学期までに、取り組もうと考える具体的なFD活動プランを以下から選んでください。

- 9 授業方法の改善の観点（複数回答可）
 - ①他教員の授業参観
 - ②学内外のFD講演会・事例研修等への参加
 - ③FD関連書籍・レポートの閲読・卒読
 - ④その他
- 10 授業内容の充実・強化の観点（複数回答可）
 - ①学会誌・紀要等への論文執筆或いはシンポジウムへの出席や発表
 - ②関連書籍等の閲読・卒読
 - ③教科書・参考書等の執筆・出版
 - ④その他
- 11 FD活動に対する助成（予算措置）の必要性の有無
学生の授業評価は教員の授業自己点検の連携という観点からみた、共通教育部としてのFD活動推進のための予算措置の必要性
 - ①必要あり
 - ②特に必要なし

II 回答欄：

1～8について：次の4段階評価に従って、最も適切な数字（④～①）を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

④：あてはまる ③：ややあてはまる ②：あまりあてはまらない ①：あてはまらない

9～11について：質問に対応する適切な数字を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

		マーク欄				自由記述欄（左の項目に関連した意見や感想）
A	1	④	③	②	①	
	2	④	③	②	①	
	3	④	③	②	①	
	4	④	③	②	①	
	5	④	③	②	①	
	6	④	③	②	①	
	7	④	③	②	①	
	8	④	③	②	①	
B	9	①	②	③	④	④の場合具体的に
	10	①	②	③	④	④の場合具体的に
	11	①	②	③	④	①の場合具体的に

III. 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記できる点があれば書いてください。

[1] 授業方法や授業内容について

FD活動レポートのAの自由記述欄に記入された意見を以下に紹介する。

自由記述欄に授業の実態が具体的に現れている。

A1 「シラバスに沿って授業を行えた。」（学生による授業評価の質問3に対応）

- シラバス作成に関わっていないため、実施内容とシラバスにはズレが生じている。学生には今までの15回の授業を通しての授業評価を行うよう指示した。（「日本語コミュニケーション」）
- 授業内容を変更した。ただし、オリエンテーションで説明した。

A2 「学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。」（質問4に対応）

- 統合前は、一つの学科の学生を対象に講義していたので、対象のレベル、関心に合わせやすかった。今年度からは他の学生（異学年）がいるので、どこにポイントを置いたらよいかわからず苦勞した。その辺が学生評価にもよく出ている。
- 授業の内容、レベルの設定を学生のレベルにあわせて変更することはJABEEに反する。
- 初めて他学部の学生に講義をしたので、授業内容、レベルの設定がむずかしかった。
- 最初の授業で席にいた学生は講義を聞いたかった学生で、後から回されて来た学生は講義を聞かされた学生である。両者の知識差がきわめて大きく、どちらも満足できない授業になった。
- 4学部の学生の基礎知識のバラツキが大きすぎる。
- このクラスは「再受講生のみ」という特殊なクラスであり、通常のクラスと同じやり方で始めたら反応が鈍く苦勞したが、後半はだんだん学生のレベルに合った授業ができるようになった。

A3 「話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。」（質問5に対応）

- 4面の黒板の使い方が難しい。
- 全体的に早口になる傾向があった。
- 大体イメージ通りの講義ができ、毎回とっている出席カードのコメントから見ても、学生の満足度はまあまあのはずだが、視聴覚機器の全くない教室ではA3は高得点を出しようもない。最低限の設備くらいは保証してほしい。
- ビデオの映り、音声が非常に悪い教室だった。
- スライド、OHPで説明するやり方は超大型スクリーンでもない限り、学生100名が限度だ。やる気のある学生が多く、彼らにはなるべく前に座るよう指導した。結果として、後ろに座っている学生の指導に関して十分でないところがあった。

A4 「重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。」（質問6に対応）

- 教えた内容が沢山あり、多くの内容を資料を使って説明したが、教師主導で一方通行だったのでは？と反省。もう少しやりとりしながら行えたらよかった。

A5 「学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。」（質問7に対応）

- 生きた動物を使って授業を行い、まず動物に触れてみることからスタートしたので学生にとっては好奇心をもって取り組めた。
- テキストの内容に沿ったビデオを見せて内容把握に役立てたことは効果があったと思われるが、専門用語の多さにとまどう学生もいたようである。しかし、今後の学生生活及び勤めのことを思えば、必ず「後で」役立つと考えている。

A6 「授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。」（質問8に対応）

- 課したが、チェックが不十分だった。
- 授業の性格上「予習、復習或いは発展学習」を特別に課さず、授業時間内で学生が考え理解し、前の講義の内容も復習できるよう配慮した。
- 自宅学習の課題を学生に課せば学習効果は上がると思われるが、そのための十分な手当を確保できない。
- 計10回の小テストを実施した。
- 入門という立場から課さなかった。

A7 「総合的に判断して学生を満足させる授業ができた。」（質問10に対応）

- 個々の学生が持っていたバックグラウンド次第だ。

A8 「シラバスに掲げた当初の授業目標は達成された。」

- 中学・高校で習った内容や日常生活で経験することについて、どのような知識・実験データをどのように考えるとその事実が分かるか、分かった知識をどのような事実の認識に使うか、などをテーマに講義した。しかし、受講生の関心は何を覚えたらよいかに集中し、設定した目標に興味・関心を引き込めなかった。

学習環境について（学生による授業評価の質問9「学習環境は適切だった。」に対応）

- 学生の人数と部屋の大きさ、クーラーの有無など講義以前の環境にもっと力を注ぐべき。
- クーラーのない部屋での講義だったので、6月以降の学生の集中力の維持に気がつけたが、うまくいかなかった。早急に（17年度には）全室エアコン完備としていただきたい。
- この様なグラウンドで体育を行ってはならない。安全面、及び教育的効果を保障することはできない。
- 授業では図形の表示はすべてOHPで示すが、教室は視聴覚室ではないし作業において汗が出て7月は非常に暑かった。せめてエアコンの効く教室に移してもらいたい。

全体的に

- 後期は、もう少しテキスト外のテーマについても取り扱う予定である。自主作成した副教材も導入予定。発展的課題も課したい。
- 2学科の合同では、授業のレベルやねらいもしぼりきれず分散気味で、ほとんどの質問項目で3の「ややあてはまる」しか選べない。
- 全体に亘って(1)内容の精選、(2)授業での各項目の取り上げ分の工夫、(3)毎回/数回毎のくくり/全体を通じての「まとめ」の改善が必要と感じるが、実行するには論文一本捨てるくらいの決意が必要である。
- 7月7日にアンケートを実施し、7月14日に学生にフィードバックした。
- 出版予定の教科書の内容を先取りする形で授業内容を全面的にリニューアルする方針でスタートした。しかしあまりに多忙で果たせず、結局、旧来の講義ノートを用いて授業を行った。中途半端な準備となり不満足な結果になった。
- 初めて講義する科目であり、全体的にどこにポイントを絞ってやるべきか悩みながら授業を行った。対象が一つの学科だけだったら、かなり明確なレベル・目標設定が可能だが、現実にはむずかしい。その辺のジレンマぶりが学生評価にも出ていた。

【2-1】 FD活動プラン：授業方法の改善について

FD活動レポートのB欄では今後のFD活動に関して意見を求めた。

B9 「授業方法の改善に関して今後のFD活動プランとしてどのような活動を予定しているか。」

(複数回答あり。)

① 他教員の授業参観	44名
② 学内外のFD講演会・事例研修会等への参加	66名
③ FD関連書籍・レポートの閲読・卒読	56名
④ その他	45名
無回答	44名

この回答結果から、いろいろなプランが考えられていることが窺われる。

授業方法の改善に関して多様なプランが考えられている。

「④その他」として以下のような意見があった。

- 「授業形態の検討」「1クラス当たりの受講生数の制限」「カリキュラムの改良」
- 「テキストの再検討」「テキスト作成者の説明を開き各章のねらいについて確認」
- 「現在までの自分の授業の内容・方法を総括」「講義ノートの改善」
- 「同一教科担当教員（非常勤含む）の自主的懇談会」
- 「自分で研鑽をつむ」「指導法に関する研修」「発声法の訓練を専門的に受けてみたい」
- 「受講生の知識の把握」「学生による授業評価の結果を知る」
- 「マイクの使い方の改善」「私語を強く注意すべきだった」
- 「パソコンの更新」「雨天時の対策」
- 「ゼミ形式で行っているため別のFDが必要」「この授業科目にはあてはまらない」
- 「改善すべきとは考えていない」「今回の方法を継続する」

【2-2】 FD活動プラン：授業内容の充実・強化について

B10 「授業内容の充実・強化に関して今後のFD活動プランとしてどのような活動を予定しているか。」（複数回答あり。）

① 学会・シンポジウムへの出席や発表	46名
② 学会誌・紀要等への論文執筆	44名
③ 教科書・参考書等の執筆・出版	119名
④ その他	26名
無回答	46名

この回答結果によると、最も多くの教員が考えているのは「③教科書・参考書等の執筆・出版」である。

授業内容の充実のための手段として教科書などの執筆を予定している教員が最も多い。

「④その他」としては以下のような意見があった。

- 「教育にあてる時間を作る」
- 「内容の妥当性の検討」「学生のレベルを考慮する」
- 「本人の努力」「己の学力を充実させる」「自己反省」
- 「留学（短期・長期の出張・研修）」
- 「FD報告書の入手や作成」「学生の評価内容の知らせをまつ」
- 「独自の教材の開発」「副教材の入手や作成」「シラバスの作成」「講義資料の充実」
- 「演習問題の作成とWeb上での公開」
- 「この授業科目にはあてはまらない」「特に必要なし」

【2-3】 FD活動に対する助成について

B11 「FD活動に対する助成の必要性の有無。」

① 必要あり。.....	119名
② 特に必要なし。.....	112名
無回答	44名

「必要あり」と「必要なし」とがほぼ同数である。

FD活動への助成の必要性については判断が分かれている。

「①必要あり」とする理由としては以下のような意見があった。

- 「共通教育に即したFDの機会がない。学生の状況、授業技術、内容編成等について交流・研修の機会が必要である。主題教科目の主題毎の集まりが（涼しい所で、ある程度時間も取って）あると良いのだが」「外部からの講師派遣等」「FD活動に関するワークショップを開く」「先進例についてのワークショップなどの開催」「主題教養科目の主題毎に担当者の交流・研修会を開きコーヒー代、弁当を支給」
- 「宮大生の（入学生の）基礎学力調査を実施してはどうか。（点数は出来るか、日本語の読み書きはどうか、時事用語はわかるかetc.）。授業改善の出発点になると思う」
- 「FD活動に対する助成ではなく、実験を含む授業であったので、予算が必要だった」「校費等経常的経費の増額」「学生の学外での研修・活動への助成等」「フィールド教育に関する必要経費」
- 「必要な書籍の購入」「参考図書は年間10万程度は使ってそろえたい」
- 「教室に機器を備えたい」「コンピュータの設備改善」「ソフトウェアのバージョンアップ」「空調がないことの不満が学生に多い」「視聴覚機器の更新」
- 「TAが今後も必要」「TAによる小テストの採点、出席調査」
- 「非常勤の場合でも、申請すれば授業用のビデオ等が購入できれば良いと思う」「非常勤講師の枠の確保」
- 「クラスサイズが大き過ぎるといふ学生の批判には予算ヌキで応えられない」
- 「学長表彰、研究費配分の差別化」
- 「FD等を専門とする教員の雇用」「FD専門家を招聘する必要あり」
- 「調査結果の公表と対応等の裏付け」
- 「FD関連書籍の充実」
- 「書籍・広報活動の充実」「ネット教材の導入」

【3】 自分の授業の評価点・反省点

自分の授業の「評価できる点、反省すべき点」について記入してもらった。個々の科目群ごとに紹介する。同じ科目群を担当する教員にとって大いに参考になると思われる。

授業担当教員のなまの書かれている。

(1) 日本語コミュニケーション

- 日本語コミュニケーションを今の形でやること自体に無理がある。2度の改組により学科の専門性は薄れ学生は何を目標にして勉強すれば良いかわかり辛くなっている。まずは本学部が何を学ぶ所か実体験をさせ、その中から目標を見出せるようにすべきである。
- 何でもありのシラバスだが、私たちは、学生全体を3～5人程度の小グループに分け、グループごとに学習課題を見つけてもらった。グループごとに学習と調査を通じてコミュニケーションの基本を身につけさせるように工夫した。最後の2コマを使ってグループごとに学習成果の発表をさせたが、手のこんだパワーポイントを使っての発表もあり楽しかった。学生のA6の問い（予習・復習や発展学習）に対する評価が分かれているのは、グループ単位での学習のねらいが十分周知されなかったことによるのだろう。
- 本学科ではグループ別学習が基本になった。各教員は各々工夫して授業を進めたが、反面、グループ毎に大きく異なる授業になり過ぎた感がある。もう少し具体的なシラバスを作成する必要がある。
- この科目は少人数教育をうたっているが10人程度の学生と講義をする部屋を充実してほしい。
- 多くの教官がオムニバス方式で行うこの科目の目的はあまり達成されていないように思える。昨年までのフレッシュマンセミナーと同様に行うようにとの指摘もあったがそれはシラバス内容とは異なる。結局、全体としてはまとまりが少なく教育的効果があまり期待できないのではないか。
- この授業はシラバス等中身の検討をほとんどせずに実施されたのでたいへんにとまどった。
- 内容はフレッシュマンセミナーのように紹介する程度で実施した。今後の大学生活に興味を持つように、又、進路も決められるように指導した。
- オムニバス形式の授業なので多様な授業展開ができた。先生方の共通認識が不足している点があるので、来期へ向けて努力したい。
- 授業期間の始まりと終わりの2回ずつを全体で実施し、その間は、各教科に分かれ、それぞれ複数教員が担当した（これは教科の独自性を考えてのこと）。よって、この活動レポートでは、学生の評価とまとめの授業状況を基に判断して記入した。
- 半年という短い期間で、授業を展開していくことに、まだ不慣れであり、来年度に向けて見直しをしたいと考えている。また、日本語コミュニケーションという専門外の授業についてとまどうこともあったが今回の反省を次回につなげていきたい。

- 日本語コミュニケーションは評価基準があいまいで、学生はどう努力すればよいか分からず、教員にポリシーもない。交歓会でいいのか？
- 工夫して授業を進めたが、討論やコミュニケーション能力の向上は難しい問題であると一層痛感した。
- 9つのテーマを学生に選ばせたが、もう少し幅広いテーマを与えた方が良かった。しかし、学生は熱心に取り組み、発表もスムーズにできるようになった。
- 初めての講義科目だったが、毎回少しづつ課題を変えて出したので、学生もあきずについて来たと思う。
- 「日本語コミュニケーション」というネーミングは良くない。旧来の「フレッシュマン（フレッシュャーズ）セミナー」の方が良い。
- 昨年前期にこの科目について教員の授業参観を行った。
- 体験型学習なので学生は興味をもって受講していたようである。ただし、内容の妥当性やスケジュールの検討が必要である。
- 初めてのライティングで資料に力を入れ過ぎたためか、授業中あまり板書することがなく、その事で学生にとって退屈な授業となってしまった事を大きな反省点とする。
- よく計画され、学生も積極的に授業をつくるのに参加したと思う。これをもう、1、2年続け、効果や成果を見る必要がある。
- 今年度はじめての試みだったが、ディベートの導入をはじめ、学生の主体的参加型の、授業構成としては比較的高い水準を達成できたのではないかと思う。
- 授業以外で学生が積極的に学習する機会が多く、それをどのように評価するか、検討する必要があるのでは。
- テーマが「脳死は人の死か」だったため、興味をもって取り組んでいたようだ。
- 本学部の「日本語コミュニケーション」の授業は、他学部の同科目の参考になるものと思える。
- 冬グループの最終評価がバランスのとれたものになるよう工夫する必要がある。
- 他の授業と同じ形式の項目ではアンケートに答えられない。具体的なイメージすら持てなかったのだが、なかなかいい授業だったと感心している。学生の反応もよかったと思う。
- 「コミュニケーションの基礎理論」に関する講義も担当したが、もう少し具体的でポイントを絞ったものにすべきであった。

(2) 情報科学入門

- 学生にもっと活用させたいソフト、とくに画像処理系のソフトが貧弱すぎる。以前から追加してほしいとお願いしているが一向に改善されていない。
- 自分用のパソコンを持っていない者もあり、またパソコン経験が全く無かった者もいたため、A6の「予習、復習」は少し難しい面があった。ただその一助としてテキストは持たせたが、事前に読んだ者は少ないように見受けられた。
- 長年にわたって改善を重ねた授業であり、内容に問題はないと思う。但し、IT技術の進歩に常に留意する必要がある。
- 習熟度別のクラスを作る必要が感じられる。

- 授業目標の理解について、教員と学生の間で一致させるのが難しい。情報科学入門ではコンピュータを使ったことの有無で理解度が異なるため、クラス分けを行うことが必要かもしれない。演習室端末数がクラスサイズに合っておらず、キメ細かい指導が難しい。
- コンピュータの習熟度にはかなりのバラツキがあり、実習面ではクラス編制の仕方を考える必要がある。
- コンピュータの習熟度のバラツキのため実習でのクラス編制を考える必要がある。
- 情報科学入門の場合には学生個人ごとの経験・知識にばらつきがあり授業により工夫が必要である。
- 理解や知識の程度が学生により大きく異なる為、学生によっては、やや易しすぎ、ゆっくりしすぎた授業になってしまったかも知れない。各自の能力に合った程度の課題を課すなど、退屈しない授業構成を考える必要があるかもしれない。
- 授業内容として、かなり多くの項目を盛り込み教授することができた。しかし、授業時間の不足のため、十分な説明が出来ない項目もあった。今後、この点を改善したい。
- 授業のはじめにアンケート調査を実施し、学生のレベルを把握した上で、授業内容を設定・調整した。日本語コミュニケーションと関連した授業計画を設定することで、学生の目的意識、学習意欲が向上したと思われる。
- この授業に限ったことではないが、学生のニーズを見抜く力はあるつもりだが、TAも指摘していたけれども、高校までのパソコン知識が余りにも低い者がいたので、そういう者たちにとっては、高度すぎたり早すぎたりしたかもしれない。ただ、一部には能力の非常にある者も存在するため、程度を下げるのは難しい。高校での「情報の授業の定着」を期待する。
- 情報科学入門では、TAをお願いしているので、TAの効果に関する評価が必要かと思う。また、TAの院生の意見をまとめてみることも、有用ではないだろうか。
- 15回の講義の途中で1～2回学生による授業評価及び講義の感想を受け、後半の授業改善を行う必要がある。
- 多くの学生は、楽しんでいたようだ。もう少し内容を増やしたいが、学生がついてこない危惧がある。
- 学生数が53名、パソコン台数が50台、さらに故障しているものが2～3台と毎回パソコンが不足している。是非改善してもらいたい！

(3) 英語およびコミュニケーション英語

- 授業中の学生の反応の悪さからすると、A5（「学習意欲を掻き立てる授業」）の点では失敗だったかもしれない。英語そのものへの関心が強ければもっとひきつけられたかもしれないが、さらなる工夫を心がけたい。
- 英語力をアップすることや英語そのものに関心がない学生にいかに関心を持たせるかが問題だと感じている。硬軟取りまぜて、いろんな工夫をしていかねばならないだろう。
- 授業目標の達成をめざす進め方はある程度できたのではないかと思うが、学生のレベルの多様さにうまく対応しきれていない部分があり、改善の必要もあるだろう。

- 今年度は初等教育コースの学生が集まったクラスだったので、通常の共通教育の英語の内容に加え、発音練習を強化した。学生の希望やニーズに合っていたようで好評だったと思う。
- 英英辞典になじませ、英語のニュアンスを英語で理解できるようにしたいという目論見は一部の積極的な学生には有効だったと思うが、基礎力の足りない学生には難しかったかもしれない。高い教材を買わせたので元を取る意味でも汎用力をつけて欲しかったが、教える側、学ぶ側双方の力量不足なのだろう。英語で何をするにも今の大学生の英語力ではマトモなことは出来ないのではないかと暗たんとした気分になって来る。
- 学生はもう少し英々辞典を引きこなす様になってくれるだろうという期待は甘い見込みだった様だ。基礎力の欠如を強く感じたが、学習英々辞典も引きこなせない英語力では物の役には立たない。教師としては手ほどきをしたつもりだが、効果はなかった様で、テキストのレベルを下げざるを得ないのかと改めて暗たんたる気分になった。
- 教室の外でも英語学習をさせるべく暗唱を課すが、かなりの手間と時間を要する。音読訓練をどのように実現できるか、知恵をかりたい。
- 学生のレベルに違いがあるため、毎年のことであるが、教えるさいのレベル設定がムズカシイ。できれば能力別クラスを導入して頂きたい。
- リスニング用、リーディング用の教材を併用し、また、担当を決めて、前期に一度、英文記事の要約発表を各自やらせたので、授業内容はバラエティに富んでいたと思う。ただし、授業中に書かせた要約やエッセイをなかなか返却できなかったこと、授業開始が遅れ気味だったことを反省している。
- 授業目標の達成をめざす進め方はある程度できたと思っているが、学生の英語力や英語への関心度のレベルが多様であるため、ほぼ全ての受講生を満足させるに至るのは非常に難しいと痛感している。
- 授業の重要ポイントを示した予習用資料を多く使用したが、学生の取り組みは思ったよりも良かった。知的な好奇心、関心を掻き立てるような工夫が自分でも不足していたと思う。英語の得意な学生が多く、やや物足りないと感じた学生も多いと思う。
- 英語を苦手とする学生が多く、補助教材作りに苦勞した。教える内容の精選が課題かと思う。
- 共通テキストのみでは、授業が単調になるので、副教材としてビデオ教材を使用した。また、英語スピーチ、英文記事の要約発表、映画鑑賞等も取り入れ学生の興味を引く工夫は行った。共通テキストの問題や解答に不備があることがあった。学生からの質問に即答できないことがあったので、この点を改善したい。

(4) 初修外国語

- 語学の場合、1クラス当たり20名を越えると学生との満足すべきコミュニケーションがとれなくなる事が知られている。それ以上の人数だと「言いつ放し」の講義に終始してしまうおそれがある。ましてやこのクラスのように80名を越える受講生が存在する場合、自分の力量は措くとして、ほとんど語学の授業らしい授業は成立しない。クラス数を増やすか、あるいは「第二外国語」を廃するかの段階に来ている。

- このクラスは約90名という語学の授業としては巨大なものとなってしまった。他に約80名のクラスも持っている。ドイツ語のクラスが慢性的に大き過ぎる原因は、中国語の導入拡大により構造的にクラスが減ったにもかかわらず、再受講生の母体のクラスが以前のままであることにある。FDを考えるのに80~90名というクラスは問題外と思われる。
- 文法をこま切れに教えるのではなく、総論的に教えているが、全国でもあまり多くない事例と思う。
- 私の担当する他のクラスが80~90名と巨大なのに、このクラスのみ約40名なのは、再受講生のためだけに増やしたクラスだからである。しかし、そのクラスに再受講生が集中するのは予想を越えている。このクラスも、他の2クラスに20名ずつ行っていたらやはり巨大クラスになってしまうので意味があった。
- 語学のクラスサイズは、せめて50名以下でないとFDの意味も薄れてしまう。何とかまず基本的条件であるクラスサイズの適正化を保証して欲しいと思う。
- ドイツ語を2学部で合同クラスで教えている。教えるべきものは段階をおって決っている。しかし、その内容が一方では難しく、他方では易しいという場合、それは学生の意識、意欲、能力による。これを同一の視点で評価するのはおかしい。
- 学生の学力低下にうまく対応できていないように感じる。
- 黒板の活用法に留意していく。
- 今学期は会議等が非常に多く、教育面で十分な時間が作れなかった。加えて、体調を崩し、休講も出て、学生には申し訳ない部分があったと反省している。とはいえ、事務や研究の作業をほぼ放棄したような教員と教育面で同一の俎上で評価されることには納得がいかない。教員の相互評価も取り入れて欲しい。
- 授業において、当該外国語が使われている現地の今の状況についても話していきたい。
- この授業は週2回かつ2学科の合同授業で非常にやりにくかった。特に学生のレベル・関心・参加度(意欲)が大きく異なると思われる2学科を同一クラスにすることは無理がある。教員自身の自己点検はこれからも継続する方がよいと思う。

(5) 健康スポーツ科学

- 高校までの体育と比べて、理論と実践の統合をより高いレベルで行うことを目標としているものの、学生にそこまでの運動経験もなく、学生の条件に授業の内容等を合わせているのが現実である。
- 授業の性質上、過不足ない器具が必要である。自身の授業能力向上とともに、物的環境整備が必要である。
- スポーツによる授業において、環境条件や付帯施設の問題は決定的マイナス要因である。
- 雨天が多かった。
- 経験者が多く、彼らを満足させるような技術指導ができなかった。
- 今回は調査できなかった。本授業は外部施設を使い、6月には集中方式で終了したため、調査票が間に合わなかったことによる。
- 早急のグラウンド改善を求む。

- 実技の授業なので、雨天の時の対応を今後改善する必要がある。
- 14時間目の欠席者が多く、次時に発表し合う課題を出すことができなかった。従って、毎時の簡単な感想文を評価に加えることにした。ルールについて説明する時間がとれず、班ノートにルールを入れ、各自で調べられるようにした。それが興味・関心を高めたとされる。
- 異なる2つの学部の学生がゲームを介して交流できるよう、場づくりに力を入れたので、その点は学生も評価してくれている。
- 屋外コートを使用していたが、例年になく天候不良に見舞われ、応急的に体育館で実施したり、他の内容を充てたりせざるを得なかったため、予定していた内容を十分に展開することができなかった。
- 屋外の授業における雨天対策を講じる必要有。
- 全体的に、学生の受講態度に問題がある。講義の全体的枠組みを検討するとともに、テスト等、学生の負荷を増やしてよいと考える。

(6) 主題教養科目

- 授業は最大50名までの規模にしないと、いくらFD活動で頑張っても効果は期待できない。ハード面で可能であれば、多数の教官が参加し、クラス数を増し、クラス規模を小さくすることが急務。
- 受講カード及びワークシートなどを用意し、学習を促す工夫を行っている。
- 授業の性格上、受講生100名を上限としたいところだが、そういうわけにもいかないと思うので、なるべく全員に目配りできるよう努力したいと思う。
- 発展学習の課し方を改善していきたい。
- 受講生の学力がさまざまであり、一部の学生には内容がやや易しすぎたかもしれない。ディベート方式等、双方向性型の講義形態ももうすこし取り入れるべきか迷ったが、大人数の共通教育においてそれがどこまで可能か、また学生自身、そうしたものを本当に望んでいるのかは今だ確信が持てない。(一部の熱心な学生以外は、伝統的な講義形態の方が、大人数の前で意見発表等の「苦役」を避けられるので望ましいと考えている節もある。)
- 学生も書いていたとおり、私自身も全教室にクーラー完備を大学に望みたい。約100名も登録者がいる授業で、熱風の中お互いもうろうとしながら授業をするなんて、非効率だし(FD以前!)、なぜか教室の前には「飲食厳禁」の貼り紙が!(これも今どきナンセンスだと思う。)もし教員or学生が脱水症状等をおこすことになればどうするのか。(私は個人的な判断で、飲料水の摂取を許可していたが…。)
- 空調工事がもう少しで完成と思われるが、私も学生も暑かった。
- 他学部の教室に出張してでも、クーラーのある部屋を確保すべきだった。反省。
- 出欠を取るのが大変。多いと、代返もあつたりして、精神的にも時間的にも大変。
- ノートを印刷して配っているが、枚数が多いので、まわりに少し気を使う。
- 机間演習を実施しているが、学生の質問に十分対応出来ない。学生数は約70名である。
- 海外出張が入り(2回、1つは招待される)、学生への講義を補講の形で行わざるを得なかったのが反省点である。

- 1回1回の講義で、ポイントを押さえた話し方、要点をきちんと伝える講義が必要であり、色々なものを盛り込み過ぎると、かえって理解を削ぐ結果となる。シラバス練り直しと講義方法の見直しが反省点である。
- 100人を対象とする講義で全員に比較的忍耐を強いる（数式などのフォローなどのため）講義内容というのは難しいと感じた。できるならば、受講学生数を減らすのが適当な方策の一つであると思われるが、これは私自身の授業の工夫で対応できるものではない問題である。あるいは、目新しいテーマを並べるような講義内容とする事も考えられるが、これをすると、授業目標を変更する必要が出てくる。
- 5月27日に同一科目の担当教官6名に集ってもらい、教育方法の改善に関する意見をきいた。7月7日～7月14日の間に授業評価アンケートを集計し、その結果を上記教官に届けた。7月22日に第2回めの会議（担当教官の勉強会）を開く予定である。
- 教科書にはない身近な現象の解説を学生は望んでいることが後のアンケートよりわかったので、もう少し取り入れれば良かった。
- 文系学生を対象にした自然科学系の授業設定のむずかしさ、努力してわかることよりも楽に単位が取れることに価値を置く風潮の中で、努力はしているが成果があがらない。
- 今後、学生の評価や意見、同僚の意見などを参考にして改善していく。継続した教育実践の上での評価が必要であり、変化が出てくるかにも注目していくことが大切と思う。何人かの学生は「難しい内容を」という意見も出しており、今後検討したい。
- この授業は、学生の評価がよく、私の担当している授業の中では最もうまくいっていた。しかし、旧宮大と旧医大の統合の中で廃止されることになった。授業評価とカリキュラム変更が全く無関係におこなわれたことは残念である。

(7) 選択教養科目

- 昔のままの方法では通用しない。パワーポイントなども用いながら教授法を工夫しなければと思われる。
- 出張による休講があったが、補講が設定できなかった。学部ごとの時間割の相違を考えると全員が出席できるような補講の設定は不可能に近い。
- 教室がいっぱいで学生からの不満の声が聞かれた。グループワークをする際、机が固定式なのが難点であった。
- 大学が小学校なみに落ちこんだようだ。さびしい限りだ。いずれ固定教科書（指導要領付）を用いるのだろうか！
- 基礎学力に違いがある学生の指導をどうするか。質問を活発にする工夫を考える必要がある。
- 演示実験をできるだけ取り入れた。
- 板書について反省点が残る。
- 字がきたないのは直らない。（板書が多い）＋（黒板の面積が少ない）
- たとえ話を導入して理解を深めたことが評価できる。
- 4学部200余名という受講者のため、授業内容やレベルの設定が非常に困難だった。できれば、もう少しレベル（基礎知識）が揃った50名程度の少人数で行えればと願っているが、入門とい

うことなので、そういうわけにも行かないのかな、とは思っている。

- 学生からの反応を授業にいかす工夫が足りないことが反省点である。
- 体験をもとに知識を構成していける点、キャンパスカードを用いたレポートで、現場で知識を確実にしていけるなどの点で評価できる。反省すべき点としては、現場にいるので興味に流されてしまわないようにすること。また、常に複数の教員でやっているのだから、教員間のコミュニケーションを活発にし“慣れ”が生じないようにチェックしたい。
- 実技のレベルの差を考慮しながら、工夫ができたと思う。
- 1コマのクラスに準備とあとの整理（個々の学生の作業のすべてを点検）で毎回7時間はかけている。教育文化学部を受講生が教育実習のために欠席しているときにこの調査である。
- 学生のためと思って、授業内容を詳しく書いたプリントを配布したが、逆に授業でプリントをなぞっているだけという批判が増えてしまった。コアカリキュラムにできるだけ近づけようとしたため、重要な事項ばかりになり、学生には難しく感じられたかもしれない。

(8) 日本語・日本事情

- 茶道の一番初歩を行い、全員が予定した計画に沿ってマスターできた。あわせて、最初の“あいさつ”で、マレーシア、韓国、日本、中国のさまざまな生活様式を意見交換できた。最後、和食のマナーも実地で行うことができ、全員満足したことを確認できた。ただし、1回1回お菓子を用意する負担は強いられた。
- 場所があれば日本人との交流の場面を設定したい。
- お茶会に連れていきたい。
- お茶とお菓子代の予算化をお願いしたい。

【4】 学生による授業評価およびFD活動レポートについて

「学生による授業評価」や「FD活動レポート」について以下のような意見が記入された。

(1) 学生による授業評価について

(質問項目に関して)

- 本科目（「情報科学入門」）に対応しない。
- 授業（「日本語コミュニケーション」）の性格上、学生に主体的に作業させる部分が多く、質問項目があまりよくない。
- 問9の「学習環境」については、教員側にはどうしようもないことが多い。（例：クーラーがなく代替教室もないなど）。にもかかわらず、Dの総合評価（問10の前）に質問が置かれているのは釈然としない。学生は問9の評価が悪いとその流れで10もワンランク下（あるいはそれ以下）の評価をすることになりがちだからである。もし質問するならば、番外、あるいは総合評価の後にするとよい。

(実施時期に関して)

- 最後の授業まで計算に入れて授業全体の設計をしていたので、その完成の回の前にアンケートを取らねばならなかったのは大変残念だった。後学期も同様に最終日前になるのだろうか。
- 学生による授業評価は、最終授業日まで待つほしい。（7月16日締切りは早すぎる。）
- 何を理解し何を理解していないか、これから、授業を最後までやった上で、試験をしてチェックするわけだから、そのあとの授業評価であるべきではないか。何が分かったか分からない段階でのアンケートはいかがなものか。
- アンケートを2度実施した所、余り再現性がないような結果となった。時期を固定するのではなく、教官が当事者として実施するのなら、実施時期を前半スポットと後半、総合的に行うというように委せてほしい。その方が教室（授業）運営がやり易い。

(分析データに関して)

- 昨年も授業評価を実施したが、その分析データが戻ってこないで改善すべき資料として結果を知らせて欲しい。

(2) FD活動レポートについて

- FD活動レポートにより自分の改善すべき点に分かるのでよいと思う。
- FD活動レポート項目をマークすると、改めて講義の欠点が見えてくる。
- このレポートを書くのは、データの集計後にしてほしい。数字として出てこないでA欄の設問に自信をもって答えにくい。
- FD活動レポートのB欄がよく分からない。非常に答えにくいと感じている。
- 受講生全員を満足させることは決してできないので、このレポートに意味があるとは考えない。
- 目的や方法論が明確でないうえ納得いかない点も多いので回答しない。

第4章 各科目ごとのデータ一覧

以下に前学期のすべての共通教育科目（268科目）のデータを掲載する。ただし、科目名・担当教員名は掲載しない。また、科目の順番は質問10（満足度）への評価の高い順に並べ直してある。空欄は「学生による授業評価」を実施しなかった科目である。（下の表の場合、4科目が未実施。）

【1】 日本語コミュニケーション（26科目）

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10
1	4	3.9	3.8	3.8	3.4	3.6	3.7	3.4	4	3.9
2	4	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7	3.5	4	3.8
3	4	3.8	3.3	3.5	3.8	3.6	3.6	3.6	3.9	3.8
4	3.9	3.6	3.8	3.7	3.9	3.7	3.7	3.6	3.9	3.8
5	4	3.9	3.7	3.8	3.7	3.6	3.8	3.7	3.9	3.8
6	3.9	3.7	3.4	3.6	3.3	3.3	3.3	3.4	2.9	3.4
7	4	3.7	3.7	3.3	3.5	3.1	3.4	3.5	3.0	3.4
8	4	3.6	3.2	3.6	3.5	3.3	3.2	2.8	3.2	3.3
9	4	3.8	3.0	3.3	3.3	3.3	3.3	3.1	3.3	3.3
10	4	3.8	3.4	3.5	3.5	3.3	3.3	3.1	3.5	3.3
11	4	3.5	3.7	3.2	3.5	3.3	3.4	2.9	3.5	3.3
12	3.8	3.8	3.4	3.5	3.2	3.1	3.5	2.8	3.5	3.2
13	4	3.5	3.3	3.3	3.2	3.0	2.9	3.0	3.5	3.0
14	3.7	3.3	3.4	3.3	3.0	2.9	3.0	2.6	3.3	3.0
15	3.9	3.6	3.5	3.3	3.1	2.9	2.9	3.1	3.0	2.9
16	3.9	3.2	3.2	3.2	3.0	3.0	2.5	2.8	2.9	2.9
17	4	3.4	3.3	3.0	2.8	3.0	2.5	2.4	3.6	2.8
18	3.9	3.6	3.4	3.3	3.2	3.0	2.9	2.9	3.8	2.8
19	3.9	3.2	3.4	3.1	3.0	3.1	2.3	3.0	2.8	2.8
20	3.9	3.6	3.5	3.2	3.1	2.7	2.6	2.7	3.3	2.8
21	4	3.4	2.9	2.2	3.0	2.8	2.4	2.6	2.5	2.5
22	3.9	3.2	2.9	2.8	2.8	2.3	2.4	2.3	3.7	2.4
23										
24										
25										
26										

【2】 情報科学入門 (24科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問10
1	3.9	3.7	3.6	3.5	3.7	3.6	3.6	3.5	3.7	3.8
2	3.9	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.3	3.7	3.7
3	4	3.9	3.6	3.5	3.6	3.4	3.4	2.5	3.9	3.6
4	4	3.9	3.6	3.6	3.5	3.3	3.3	2.9	3.8	3.6
5	4	3.8	3.7	3.4	3.4	3.3	3.4	3.4	3.7	3.6
6	3.9	3.8	3.7	3.2	3.5	3.3	3.3	3.1	3.7	3.6
7	4	3.8	3.6	3.7	3.6	3.4	3.3	3.0	3.6	3.5
8	3.9	3.9	3.4	3.5	3.4	3.3	3.3	3.0	3.6	3.5
9	4	3.7	3.5	3.4	3.4	3.1	3.2	2.8	3.8	3.5
10	4	3.7	3.4	3.3	3.4	3.2	3.3	3.3	3.5	3.5
11	4	3.8	3.7	3.3	3.2	3.0	3.2	2.9	3.8	3.4
12	4	3.4	3.7	3.5	3.1	2.9	2.9	3.0	3.9	3.4
13	4	3.8	3.5	3.0	2.8	2.9	3.1	3.0	3.7	3.3
14	4	3.7	3.6	3.1	3.2	3.0	3.3	2.8	3.8	3.3
15	4	3.7	3.6	3.2	3.2	3.0	3.2	2.9	3.5	3.3
16	3.9	3.5	3.7	3.3	3.3	3.2	3.1	2.4	3.4	3.3
17	3.9	3.5	3.4	2.5	2.9	2.5	2.7	2.4	3.5	3.0
18	3.8	2.9	3.3	2.7	3.5	2.8	2.7	3.0	3.7	3.0
19	3.7	3.4	3.3	2.7	2.8	2.5	2.8	2.8	3.4	2.9
20	4	3.1	3.4	2.6	3.4	2.9	2.6	2.9	3.5	2.9
21	4	3.5	3.5	2.3	2.7	2.4	2.7	2.8	3.1	2.8
22	4	3.6	3.1	2.1	2.1	2.0	2.3	2.4	3.2	2.4
23										
24										

評価は「4：あてはまる。3：ややあてはまる。2：あまりあてはまらない。1：あてはまらない。」の4段階評価である。

質問1と2は学生自身についての質問。質問1は「75%以上の出席」質問2は「授業への真剣な取り組み」。質問3～8は教員の教え方についての質問。3「シラバスに沿った授業」、4「学生のレベルを踏まえた授業」、5「話し方、板書、機器の使用法」、6「重要ポイントの明示」、7「学習意欲を掻き立てた」、8「予習復習を課した」。質問9は「学習環境」。質問10は総合的に「満足できる授業だった」か否か。

[3] 英語 (25科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問10
1	3.8	3.6	3.9	3.8	3.7	3.8	3.9	3.5	3.9	3.9
2	4	3.9	3.7	3.8	3.8	3.7	3.5	3.5	3.8	3.7
3	4	3.7	3.5	3.4	3.5	3.4	3.4	3.3	3.8	3.6
4	3.9	3.5	3.6	3.5	3.4	3.4	3.5	2.5	3.8	3.5
5	3.9	3.6	3.6	3.2	3.4	3.3	3.5	2.6	3.6	3.4
6	4	2.9	3.3	3.3	3.7	3.3	3.5	3.1	3.7	3.4
7	3.9	3.2	3.3	3.3	3.4	3.1	3.3	2.7	3.6	3.3
8	3.8	3.0	3.1	3.4	3.3	3.0	3.2	3.2	3.5	3.3
9	3.9	3.6	3.5	3.5	3.1	3.1	2.9	3.4	3.7	3.2
10	3.9	3.3	3.5	3.3	3.3	3.2	2.9	2.5	3.7	3.2
11	3.8	3.4	3.6	3.1	3.3	3.2	2.9	3.4	3.7	3.2
12	4	3.8	3.7	3.5	3.0	3.2	3.2	3.0	3.2	3.2
13	3.9	3.4	3.8	3.1	3.4	3.1	3.0	3.5	3.9	3.2
14	4	3.7	3.6	3.0	3.3	3.3	2.7	3.5	3.7	3.1
15	3.7	3.0	3.2	2.9	2.8	2.7	3.0	3.0	3.3	3.1
16	3.9	3.0	3.5	3.2	2.9	2.7	2.6	3.4	3.9	3.0
17	4	3.2	3.6	3.0	3.1	3.0	2.6	3.4	3.8	3.0
18	3.9	3.2	3.5	3.2	3.0	3.0	3.0	3.3	3.7	3.0
19	3.7	3.2	3.3	3.1	3.2	3.0	3.0	2.7	3.6	3.0
20	3.9	2.9	3.3	3.0	2.9	2.7	2.4	3.2	3.6	2.9
21	4	3.1	3.6	2.9	2.7	2.6	2.5	3.0	3.6	2.8
22	3.7	3.2	3.2	3.1	3.1	2.6	2.7	3.2	2.8	2.8
23	4	3.7	3.5	2.8	2.7	2.3	2.3	3.6	3.5	2.7
24	3.8	2.9	2.9	2.6	2.3	2.4	2.6	2.5	3.5	2.6
25										

[4] コミュニケーション英語 (28科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問10
1	4	3.5	3.5	3.6	3.7	3.4	3.7	3.5	3.9	3.8
2	4	3.4	3.5	3.6	3.7	3.6	3.7	3.7	3.8	3.7
3	3.9	3.1	3.8	3.6	3.7	3.5	3.1	3.6	3.9	3.7
4	4	3.8	3.9	3.8	3.7	3.6	3.5	3.4	3.5	3.7
5	4	3.3	3.4	3.7	3.6	3.4	3.6	3.4	3.8	3.6
6	3.8	3.2	3.5	3.3	3.4	3.1	3.2	2.9	3.7	3.5
7	4	3.5	3.5	3.5	3.6	3.3	3.3	3.6	3.8	3.5
8	3.9	3.4	3.5	3.5	3.4	3.2	3.2	3.3	3.7	3.5
9	3.9	2.9	3.5	3.5	3.4	3.2	3.4	3.1	3.6	3.5
10	3.9	3.2	3.6	3.5	3.7	3.6	3.8	3.4	3.7	3.5
11	3.9	3.1	3.6	3.6	3.6	3.6	3.2	3.6	3.9	3.5
12	4	3.2	3.5	3.6	3.5	3.4	3.5	3.4	3.5	3.5
13	3.9	3.1	3.5	3.4	3.4	3.1	3.4	3.3	3.9	3.4
14	4	3.3	3.7	3.4	3.4	3.0	3.3	3.3	3.7	3.4
15	4	3.8	3.7	3.8	3.5	3.6	3.5	3.1	3.6	3.4
16	4	3.0	3.6	3.6	3.5	3.5	3.1	3.5	3.7	3.3
17	4	3.1	3.3	2.9	3.1	2.8	3.0	3.2	3.7	3.3
18	4	2.6	3.8	3.2	3.5	3.1	2.6	3.2	3.9	3.2
19	4	3.1	3.6	3.0	3.2	2.6	3.0	2.6	3.8	3.2
20	3.9	3.1	3.0	3.2	3.2	2.7	2.9	3.5	3.8	3.2
21	3.9	3.3	3.3	3.1	3.1	3.0	3.0	3.3	3.2	3.1
22	3.8	2.9	3.2	2.7	3.2	2.6	2.8	2.9	3.5	3.0
23	3.9	2.9	3.2	2.7	2.8	2.6	3.1	3.0	3.6	3.0
24	4	3.4	3.4	2.8	3.0	2.5	2.8	3.1	3.6	2.9
25	3.9	2.9	3.1	2.8	2.1	2.4	2.2	2.9	3.5	2.6
26										
27										
28										

【5】 初修外国語（41科目）

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問10
1	4	3.7	3.7	3.6	3.7	3.8	3.4	3.6	3.8	3.7
2	3.9	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.3	3.0	3.7	3.6
3	4	3.3	3.5	3.6	3.4	3.5	3.1	3.0	3.7	3.6
4	3.9	3.5	3.7	3.8	3.4	3.5	3.3	3.2	3.7	3.6
5	3.9	3.4	3.3	3.6	3.4	3.5	3.3	3.7	3.4	3.5
6	3.7	3.2	3.2	3.4	3.3	3.3	3.4	3.6	3.3	3.5
7	4	3.5	3.5	3.5	3.2	3.5	3.2	3.3	3.5	3.5
8	4	3.4	3.5	3.4	3.1	3.0	3.2	3.4	3.9	3.4
9	4	3.6	3.5	3.3	2.7	3.2	3.4	3.3	3.6	3.4
10	3.9	3.4	3.7	3.3	3.3	3.1	3.1	3.3	3.9	3.4
11	4	3.0	3.7	3.6	3.7	3.5	3.0	2.8	3.7	3.4
12	3.9	3.2	3.5	3.3	3.4	3.3	3.0	2.9	3.6	3.3
13	3.8	3.1	3.2	3.8	3.4	3.5	3.0	3.2	3.4	3.3
14	4	3.6	3.6	3.4	3.3	3.2	3.1	3.4	3.7	3.3
15	4	3.5	3.3	3.5	3.1	3.1	3.0	3.3	3.5	3.3
16	4	3.7	3.7	3.3	3.4	3.5	3.0	3.4	3.6	3.3
17	4	3.5	3.6	2.8	3.0	2.7	2.9	3.4	3.6	3.2
18	3.9	3.5	3.6	3.3	3.4	3.5	2.9	3.3	3.8	3.2
19	3.9	3.0	3.5	3.5	3.2	3.2	3.0	2.6	3.6	3.2
20	3.9	3.4	3.6	3.3	3.3	3.4	3.1	3.4	3.8	3.2
21	3.9	3.5	3.5	3.3	3.0	2.9	2.8	3.3	3.4	3.2
22	4	3.3	3.6	3.5	3.2	3.3	3.2	2.9	3.7	3.2
23	3.9	3.4	3.5	3.4	3.1	3.2	2.9	3.4	3.7	3.2
24	4	3.5	3.4	3.0	3.1	2.7	2.6	2.8	3.6	3.1
25	3.9	3.5	3.5	3.2	2.9	2.7	2.6	3.0	3.6	3.1
26	3.9	3.4	3.5	3.3	2.9	2.9	2.7	3.5	3.7	3.1
27	4	3.2	3.5	3.2	2.8	2.6	3.0	3.3	3.7	3.0
28	3.9	3.1	3.4	3.2	3.0	2.9	2.8	2.5	3.5	3.0
29	3.9	3.4	3.5	3.2	2.9	2.7	2.6	3.0	3.7	3.0
30	3.8	2.9	2.9	3.2	2.5	2.6	2.6	2.3	3.5	2.9
31	4	3.1	3.3	2.7	2.8	2.9	2.6	2.9	3.5	2.8
32	4	3.6	3.2	2.1	2.8	2.9	2.7	3.3	3.6	2.8
33	4	3.4	3.1	2.6	2.5	2.6	2.7	2.9	3.7	2.7
34	4	3.9	3.3	2.3	2.6	2.6	2.3	3.4	3.6	2.7
35	3.9	3.3	2.9	2.6	2.4	2.4	2.4	2.9	3.6	2.6

※学生による授業評価を未実施の科目が6科目あったが空欄は省略した。

【6】 健康スポーツ科学 (25科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問10
1	4	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.9	3.5	3.5	4
2	4	4	4	4	3.2	3.3	3.5	2.5	3.8	4
3	4	3.9	3.9	3.9	3.9	4	3.8	3.0	3.4	3.9
4	4	3.9	3.9	3.9	3.8	3.7	3.9	3.5	3.9	3.9
5	4	3.9	4	3.9	3.7	3.6	3.8	3.2	3.7	3.9
6	3.9	4	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	3.5	3.6	3.9
7	3.9	3.5	3.7	4	3.8	3.7	4	3.1	3.5	3.9
8	4	4	3.9	3.8	3.8	3.8	3.9	3.4	3.4	3.8
9	4	4	3.7	3.7	3.8	3.3	3.6	3.3	3.5	3.8
10	4	3.8	3.9	3.7	3.5	3.4	3.6	2.9	3.1	3.8
11	3.9	3.8	3.6	3.6	3.7	3.6	3.8	3.0	3.6	3.8
12	4	4	3.8	3.7	3.6	3.7	3.7	2.9	3.0	3.8
13	4	3.9	3.8	3.7	3.7	3.5	3.5	3.2	3.8	3.7
14	4	3.9	3.6	3.8	3.8	3.6	3.7	3.0	3.4	3.7
15	4	3.7	3.5	3.5	3.1	3.3	3.6	3.0	3.4	3.7
16	3.9	3.7	3.6	3.4	3.6	3.5	3.4	2.7	2.6	3.6
17	4	3.9	4	3.9	3.8	3.7	3.6	2.7	3.5	3.6
18	3.9	3.8	3.3	3.5	3.7	3.7	3.5	3.1	3.0	3.6
19	4	3.8	3.5	3.6	3.6	3.4	3.3	2.8	3.4	3.5
20	4	3.9	3.7	3.6	3.6	3.3	3.6	2.7	2.9	3.5
21	3.9	3.8	3.4	3.3	3.4	3.3	3.2	2.7	2.0	3.1
22										
23										
24										
25										

[7] 主題教養科目（現代の社会と倫理, 人間と文化, 現代社会の課題）（24科目）

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問10
1	4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.1	3.4	2.5	3.8	3.5
2	3.4	3.3	3.4	3.2	3.4	3.3	3.0	2.7	2.4	3.4
3	4	3.5	3.7	3.3	3.4	3.3	3.2	2.4	3.6	3.3
4	4	3.5	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	2.8	2.9	3.3
5	3.9	3.3	3.4	3.1	3.4	3.2	3.1	2.7	3.6	3.3
6	4	3.2	3.6	3.4	3.4	3.1	2.9	2.3	3.3	3.3
7	3.8	3.5	3.7	3.7	3.4	3.5	3.2	2.3	3.7	3.3
8	4	3.3	3.5	3.4	3.0	3.0	3.0	2.5	3.7	3.2
9	3.8	3.0	3.7	3.6	3.4	3.4	3.1	1.9	1.7	3.2
10	3.9	3.1	3.5	3.4	3.2	3.3	3.0	2.6	3.5	3.2
11	3.9	3.3	3.5	3.1	3.2	3.0	3.0	2.5	3.5	3.1
12	3.9	3.2	3.4	3.3	3.0	3.2	3.0	2.4	1.8	3.0
13	3.6	3.0	3.3	2.9	2.7	2.7	2.9	2.3	3.2	2.9
14	3.9	2.9	3.0	2.9	2.8	2.8	2.9	2.5	3.5	2.9
15	3.8	3.1	3.3	3.0	2.7	2.6	2.6	2.4	3.3	2.8
16	3.9	3.1	3.4	2.8	2.8	2.8	2.7	2.6	3.6	2.7
17	4	3.0	3.4	2.8	2.7	2.5	2.6	2.0	2.1	2.6
18	3.9	2.7	3.4	2.6	2.7	2.5	2.4	2.1	3.6	2.5
19	3.9	3.0	3.2	2.3	2.3	2.0	2.2	2.4	3.1	2.4
20	4	3.0	3.0	2.1	2.0	1.8	2.1	2.2	3.3	2.2
21	3.8	2.6	2.1	1.9	2.1	1.8	1.9	2.0	3.1	1.9
22										
23										
24										

【8】 主題教養科目（自然と生命）（22科目）

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問10
1	3.9	3.6	3.6	3.4	3.5	3.3	3.3	3.0	3.7	3.4
2	4	3.5	3.7	3.5	3.8	3.6	3.3	2.8	2.1	3.4
3	3.9	3.3	3.6	3.5	3.5	3.5	3.1	2.7	2.2	3.3
4	3.9	3.5	3.6	3.5	3.2	3.3	2.8	3.0	3.5	3.3
5	3.9	3.2	3.5	3.3	3.2	3.2	2.9	3.2	2.6	3.3
6	3.9	3.4	3.8	3.3	3.3	3.2	2.9	3.3	3.7	3.2
7	3.9	2.9	3.8	3.3	3.2	3.1	3.0	3.0	3.5	3.2
8	4	2.8	3.8	3.0	3.4	2.9	2.8	2.1	3.3	3.0
9	3.9	3.3	3.5	3.2	3.2	3.1	2.8	3.4	3.4	3.0
10	4	3.5	3.6	2.9	2.9	2.6	2.6	2.9	3.6	2.9
11	3.9	3.1	3.5	3.0	3.0	3.0	2.6	3.3	3.6	2.9
12	3.9	3.3	3.7	2.8	3.2	3.0	2.9	2.6	2.0	2.8
13	3.8	3.1	3.2	2.4	3.2	2.7	2.7	2.3	2.3	2.8
14	4	3.3	3.3	2.6	3.0	2.6	2.8	3.1	3.5	2.8
15	4	3.0	3.4	2.9	3.1	2.8	2.5	2.3	3.5	2.7
16	3.8	3.1	3.2	2.7	2.6	2.4	2.3	2.1	3.3	2.7
17	4	3.1	3.6	3.1	3.0	2.7	2.4	2.1	3.6	2.7
18	3.9	3.2	3.3	2.7	2.9	2.7	2.5	2.2	3.3	2.7
19	4	2.9	2.5	2.7	2.5	2.3	2.3	2.3	2.9	2.5
20	4	2.5	3.1	2.3	2.3	2.1	1.9	2.5	2.2	2.0
21										
22										

【9】 選択教養科目（45科目）

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問10
1	4	3.9	3.7	3.8	3.7	3.8	3.9	2.5	3.9	4
2	4	3.6	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.1	3.6	3.8
3	3.9	3.9	3.7	3.8	3.5	3.4	3.7	2.9	3.4	3.7
4	3.8	3.9	4	3.9	3.7	3.6	3.8	3.0	3.3	3.7
5	4	3.7	3.3	3.1	3.3	3.3	3.1	2.1	3.7	3.6
6	3.9	3.1	3.5	3.8	3.4	3.5	3.3	2.6	3.9	3.6
7	3.8	3.7	3.9	3.4	3.7	3.5	3.5	2.6	3.9	3.6
8	3.9	3.4	3.6	3.7	3.7	3.6	3.4	2.5	3.6	3.5
9	4	3.3	3.6	3.6	3.6	3.4	3.4	2.5	3.4	3.5
10	3.8	3.4	3.3	3.4	3.3	3.3	3.4	2.6	3.4	3.5
11	3.8	3.5	3.9	3.4	3.7	3.9	3.5	3.5	3.7	3.5
12	3.9	3.3	3.3	3.4	3.5	3.3	3.1	2.6	1.8	3.4
13	3.8	3.6	3.4	3.3	3.5	3.4	3.4	2.3	2.7	3.4
14	4	3.3	3.7	3.7	3.6	3.6	3.4	2.5	1.7	3.4
15	4	3.4	3.6	3.2	3.5	3.2	3.2	2.5	2.9	3.4
16	4	3.5	3.5	3.6	3.4	3.3	3.3	2.8	3.6	3.3
17	3.9	3.4	3.3	2.9	3.1	2.9	3.1	2.2	3.7	3.2
18	3.9	3.3	3.6	3.4	3.0	3.1	3.0	3.0	3.3	3.2
19	4	3.5	3.5	2.8	3.1	3.0	3.3	2.5	3.5	3.2
20	4	3.1	3.7	2.7	3.1	2.9	2.9	2.3	3.5	3.2
21	3.9	2.8	3.7	3.5	3.6	3.2	2.9	2.1	3.7	3.2
22	3.8	3.3	3.8	3.6	3.3	3.2	3.0	3.4	3.5	3.2
23	4	2.9	3.0	3.0	3.1	2.9	3.2	2.7	3.5	3.2
24	3.8	3.3	2.7	2.6	3.1	2.8	2.7	2.7	3.6	3.1
25	4	3.2	3.3	3.0	3.0	2.9	2.9	1.8	3.5	3.1
26	4	3.0	3.0	2.9	3.5	3.0	2.6	3.2	3.6	3.0
27	4	3.6	3.5	2.9	3.2	3.0	2.9	2.9	1.5	3.0
28	4	3.1	3.3	3.0	3.2	3.0	2.9	2.4	3.5	3.0
29	4	3.5	3.5	2.8	2.4	2.6	2.8	2.8	3.9	2.9
30	4	3.1	3.5	2.9	2.6	2.8	2.9	1.9	3.5	2.9
31	3.9	3.2	3.2	2.9	3.0	2.9	2.9	3.1	3.4	2.9
32	3.9	3.0	3.3	2.5	2.8	2.5	2.4	2.5	3.4	2.8
33	4	3.2	3.2	2.6	2.8	2.7	2.5	2.1	3.3	2.8
34	3.9	3.4	3.2	2.7	2.3	2.5	2.6	2.2	3.6	2.8
35	3.9	3.3	3.2	2.9	2.5	2.6	2.6	2.0	3.4	2.7
36	3.9	3.4	3.4	2.6	2.4	2.4	2.4	2.2	3.3	2.7
37	3.9	3.0	3.2	2.4	2.5	2.4	2.4	2.4	2.1	2.5
38	3.9	2.6	3.1	1.9	2.6	1.9	2.1	2.5	3.2	2.1
39	2.6	1.8	2.5	1.9	1.7	2.0	1.8	1.3	2.6	2.0

※学生による授業評価を未実施の科目が6科目あったが空欄は省略した。

【10】 その他（8科目）

専門基礎科目や「日本語・日本事情」などである。

No.	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10
1	4	4	4	4	4	4	4	3.6	4	4
2	3.8	3.3	3.8	4	3.8	4	3.8	3.8	3.8	4
3	3.8	3.5	3.5	3.8	3.9	3.8	3.8	3.1	3.9	3.8
4	3.3	3.3	3.5	3.7	3.7	3.8	3.7	3.2	3.8	3.8
5	3.9	3.6	3.7	3.4	3.3	3.2	3.2	3.0	3.4	3.1
6										
7										
8										

「共通教育部自己点検・評価委員会」委員名簿

(平成17年3月10日現在)

選出条項	職・所属	氏名
3条1号委員（共通教育部長）	教授（農学部）	山下 研介
3条2号委員（情報処理入門）	教授（医学部）	荒木 賢二
//（外国語）	助教授（教育文化学部）	○南 太一郎
//（保健体育）	講師（教育文化学部）	玉江 和義
//（倫理・環境）	講師（医学部）	板井 孝一郎
//（人文社会）	助教授（教育文化学部）	石川 千佳子
//（自然）	教授（医学部）	◎西 森利 數
//（複合・学際）	教授（医学部）	根本 清次
3条3号委員（登録者選出）	助教授（教育文化学部）	伊佐敷 隆弘
//	教授（医学部）	加藤 貴彦
//	助教授（工学部）	岡部 匡
//	教授（農学部）	甲斐 重貴
3条4号委員（委員会必要）	助教授（企画センター）	武方 壮一

※ ◎印は委員長, ○印は副委員長

3条1号委員：共通教育部長

3条2号委員：各分野別部会からの選出委員

3条3号委員：共通教育担当科目の登録者からの選出委員

3条4号委員：委員会が必要と認めた委員